

2015年度(2016年3月期) 決算説明会



2016年5月17日

大正製薬ホールディングス株式会社

代表取締役社長 上原 明



2015年度通期決算：概要

(億円)

	2014年度	2015年度	前期比増減		予想比*
売上高	2,905	2,901	▲ 4	▲ 0.1%	+ 1
セルフメディケーション	1,763	1,807	+ 44	+ 2.5%	+ 0
医薬	1,142	1,094	▲ 48	▲ 4.2%	+ 1
営業利益	320	289	▲ 31	▲ 9.7%	+ 19
経常利益	396	368	▲ 28	▲ 7.1%	+ 18
親会社株主に帰属する 当期純利益	245	225	▲ 21	▲ 8.4%	+ 10
1株当たり当期純利益(円)	302.57	277.75	-	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

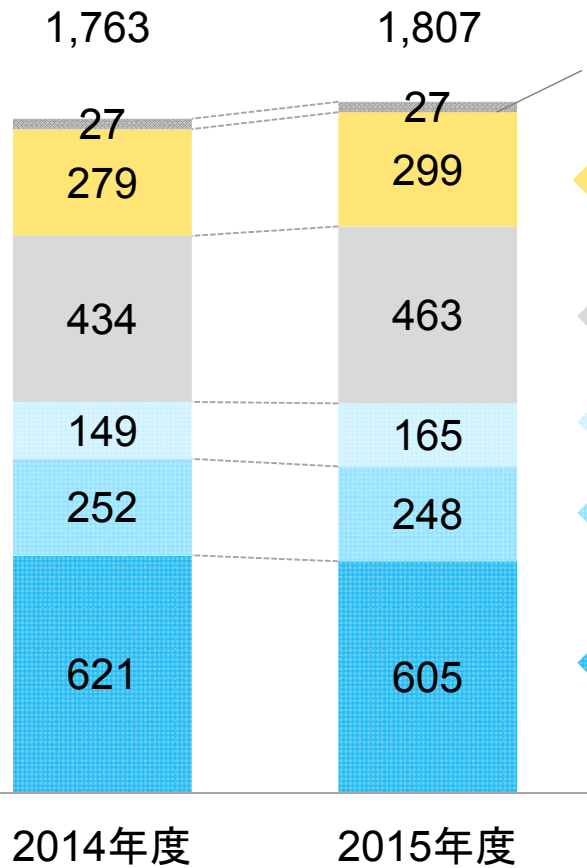
*2016年2月3日時点予想との対比



2015年度通期の概況：SM事業

SM事業売上高（億円）

内訳（前期比増減）



その他

海外（+19億円、+6.9%）

国内その他

リアップシリーズ

パブロンシリーズ

リポビタンシリーズ

為替のプラス影響

継続ユーザー購入頻度の向上
リアップX5プラスの新発売

国内合計（+25億円、+1.7%）

暖冬の影響
インフルエンザ流行の遅延

2-3%程度の市場のダウントレンド
夏場の天候不順

注：金額は億円未満四捨五入
増減は百万円単位で計算

<ご参考：市場の状況>

- 国内OTC医薬品市場：前期比（4～3月）+4.3%
（インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース）



2015年度通期

SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2014年度	2015年度	前期比増減		予想比*
リポビタンシリーズ	621	605	▲16	▲2.5%	+3
パブロンシリーズ	252	248	▲4	▲1.5%	+1
リアップシリーズ	149	165	+16	+10.9%	▲3
リビタシリーズ	40	39	▲1	▲2.8%	▲3
胃腸薬シリーズ	41	41	+0	+0.3%	+0
ナロンシリーズ	37	37	▲0	▲0.9%	▲0
ヴィックスシリーズ	35	36	+1	+3.9%	+1

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2016年2月3日時点予想との対比



2015年度通期 SM海外：売上高

(億円)

	2014年度	2015年度	前期比増減		予想比*
SM海外	279	299	+ 19	+ 6.9%	+ 1
ドリンク剤	94	103	+ 9	+ 9.5%	+ 0
OTC医薬品	176	184	+ 8	+ 4.8%	▲ 1
アジア	148	157	+ 8	+ 5.4%	+ 1
その他	27	28	+ 0	+ 1.4%	▲ 2

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

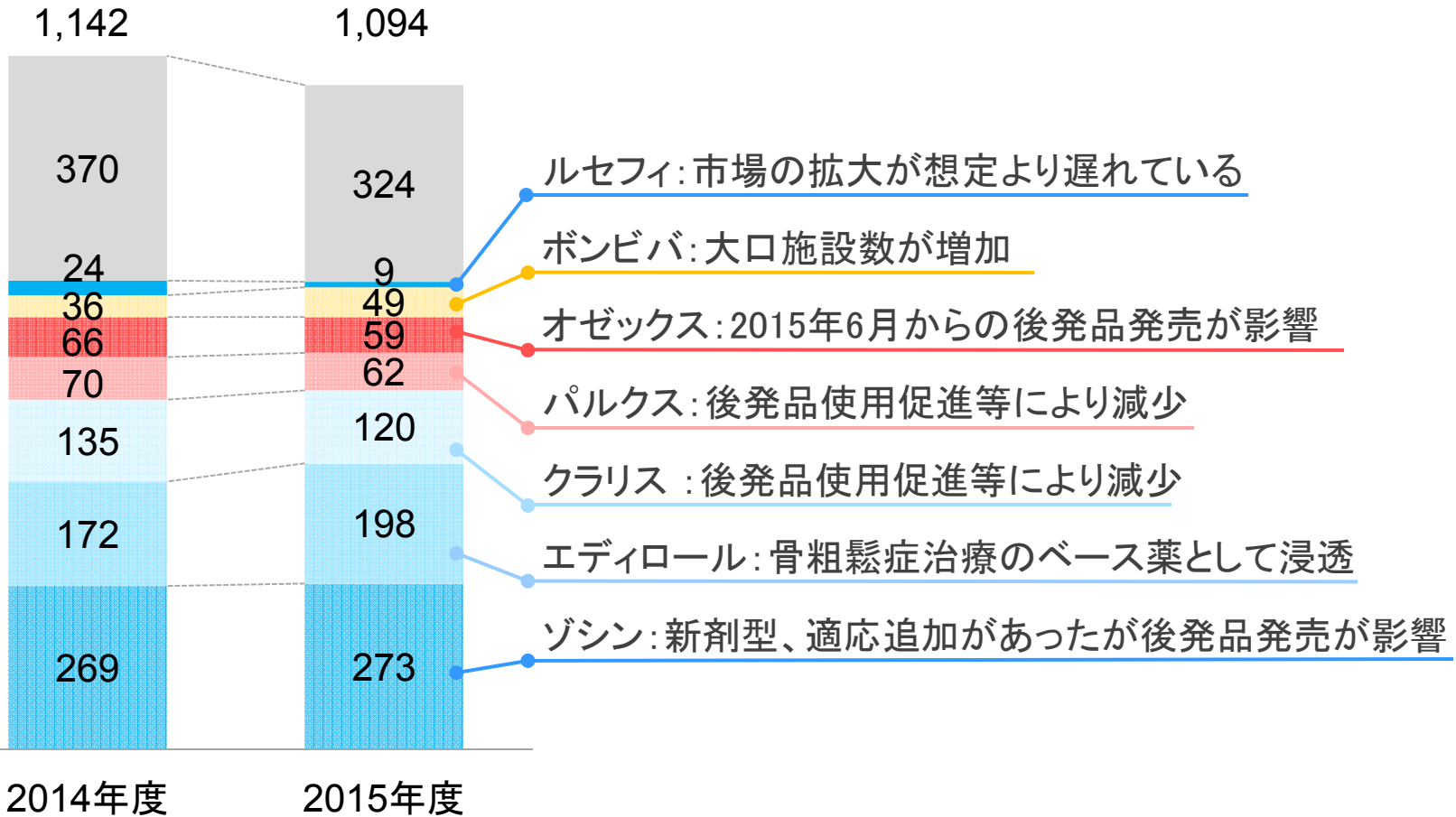
*2016年2月3日時点予想との対比



2015年度通期の概況：医薬事業

医薬事業売上高 (億円)

内訳



注: 金額は億円未満四捨五入



2015年度通期

医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2014年度	2015年度	前期比増減		予想比*
ゾシン	269	273	+ 4	+ 1.4%	+ 10
エディロール	172	198	+ 27	+ 15.7%	▲ 2
クラリス	135	120	▲ 15	▲ 10.9%	+ 2
パルクス	70	62	▲ 8	▲ 11.9%	+ 0
オゼックス	66	59	▲ 7	▲ 11.1%	▲ 2
ボンビバ	36	49	+ 13	+ 36.5%	▲ 2
ルセフィ	24	9	▲ 15	▲ 63.0%	+ 1

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2016年2月3日時点予想との対比



2015年度通期：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (▲4億円)	セルフメディケーション事業 (+44億円)	医薬事業 (▲48億円)
営業利益 (▲31億円)	売上総利益* ▲14億円 (売上総利益率* 前期61.4% → 当期60.9%)	
	販管費 +17億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+2億円
	・広告宣伝費	+22億円
	・販売促進費	▲6億円
	・人件費	+2億円
・その他	▲4億円	
営業外損益：持分法投資利益 4億円(前期比+1億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2016年度：通期業績予想

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 予想	前期比増減	
売上高	2,901	2,850	▲ 51	▲ 1.8%
セルフメディケーション	1,807	1,854	+ 47	+ 2.6%
医薬	1,094	996	▲ 98	▲ 9.0%
営業利益	289	295	+ 6	+ 2.2%
経常利益	368	365	▲ 3	▲ 0.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	225	240	+ 15	+ 6.8%
1株当たり当期純利益(円)	277.75	300.37	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2016年度予想

SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 予想	前期比増減	
リポビタンシリーズ	605	604	▲ 1	▲ 0.2%
パブロンシリーズ	248	255	+ 7	+ 2.9%
リアップシリーズ	165	169	+ 3	+ 1.9%
リビタシリーズ	39	40	+ 1	+ 2.9%
胃腸薬シリーズ	41	41	+ 0	+ 0.3%
ナロンシリーズ	37	36	▲ 1	▲ 2.3%
ヴィックスシリーズ	36	37	+ 1	+ 3.2%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2016年度予想 SM海外：売上高

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 予想	前期比増減	
SM海外	299	290	▲ 9	▲ 2.9%
海外ドリンク剤	103	97	▲ 6	▲ 6.1%
海外OTC医薬品	184	185	+ 1	+ 0.6%
アジア	157	157	+ 0	+ 0.0%
その他	28	29	+ 1	+ 3.6%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2016年度予想

医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 予想	前期比増減	
ゾシン	273	154	▲ 119	▲ 43.6%
エディロール	198	224	+ 26	+ 12.9%
クラリス	120	98	▲ 22	▲ 18.3%
パルクス	62	51	▲ 11	▲ 17.8%
オゼックス	59	46	▲ 13	▲ 21.6%
ボンビバ	49	66	+ 17	+ 34.0%
ルセフィ	9	26	+ 17	+ 194.5%
ロコア	4	18	+ 14	+ 312.8%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2016年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (▲51億円)	セルフメディケーション事業 (+47億円)	医薬事業 (▲98億円)
営業利益 (+6億円)	売上総利益* +47億円 (売上総利益率* 前期60.9% → 当期63.7%)	
	販管費 +41億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+16億円
	・広告宣伝費	+21億円
	・販売促進費	▲10億円
	・人件費	+7億円
・その他	+6億円	
営業外損益：持分法投資損失 5億円(前期比▲9億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



研究開発費の動向

2015年度実績:218億円(前期比 +2億円)

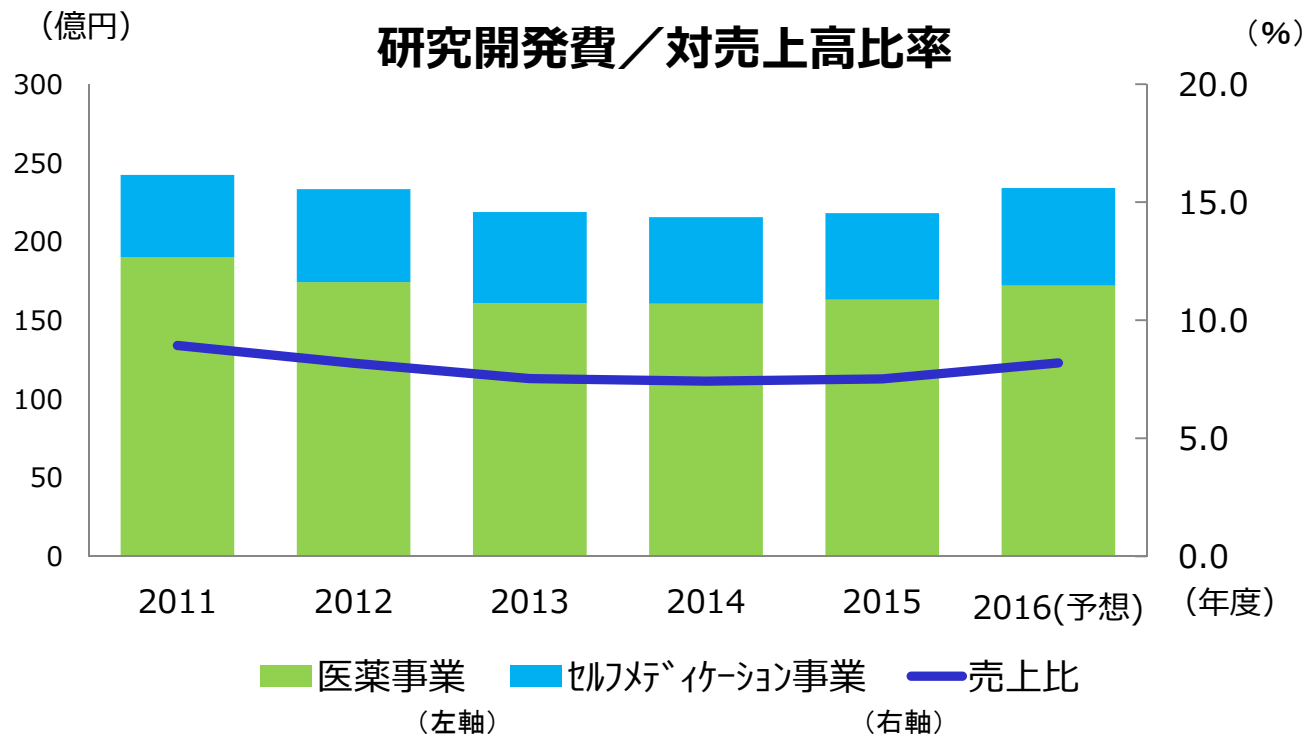
(内訳)セルフメディケーション事業:55億円

医薬事業: 163億円

2016年度予想:234億円(前期比 +16億円)

(内訳)セルフメディケーション事業: 62億円

医薬事業: 172億円





医療用医薬品：開発品の状況

- 大正製薬開発品：2015年度第3四半期決算発表時（2016年2月3日）からの変更点

（2016年5月16日現在）

ボンビバ錠（一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物）	
開発コード	CT-064
予定適応症	骨粗鬆症
変更点	2016年4月に発売したためパイプラインから削除
TS-141	
予定適応症	小児 注意欠如・多動性障害（AD/HD）
変更点	パイプライン（フェーズ2）に追加



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2016年5月16日現在)

	<u>特長他</u> 予定適応症	開発形態	国内／海外
フェーズ2			
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	国内
TS-152* (注射)	<u>抗TNFα抗体</u> 関節リウマチ	自社	国内
TS-141 (経口)	小児 注意欠如・多動性障害(AD/HD)	自社	国内

*TS-152: 一般名: Ozoralizumab



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品：フェーズ1

(2016年5月16日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071* (経口)	2型糖尿病	自社	海外
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	海外
TS-134 (経口)	統合失調症	自社	海外

*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ



大正製薬グループの方向性

- 「セルフメディケーション事業」と「医薬事業」をバランスよく成長させながら、企業価値の最大化を目指す

その実現に向けて

- セルフメディケーション事業
 - 国内：需要の創造と強いブランド作りのための活動強化
 - 海外：進出している地域におけるプレゼンスの向上
- 医薬事業
 - 新薬の売上最大化および継続的な新薬上市に向けた取組みの強化



2016年度の取り組み

• セルフメディケーション事業（国内）

需要を創造し、強いブランドを作る活動の更なる強化

- ✓ 生活者の健康意識の高まりやニーズの変化に対応した新たな領域、新しいコンセプトの商品開発・育成を強化
⇒ 「ライジン」「コバラサポート」「コパトーン」等
- ✓ マーケティングと営業活動の連動を高め、生活者との接点を拡大し、コミュニケーションを強化
⇒ 「リポビタン」: 限定ボトルの発売、ラグビー日本代表タイアップ
- ✓ 通信販売等の新しいチャネルの拡充による生活者との直接のコミュニケーションへの取り組み



2016年度の取り組み

- セルフメディケーション事業（海外）

持続的な成長の実現へ向け、進出各国での上位ポジションの獲得を目指す

✓ 東南アジアを中心とした成長市場における事業展開の強化

✓ 新たなユーザーの開発

⇒ 外用消炎鎮痛薬「Counterpain」、解熱鎮痛薬「Tempra」等のラインエクステンションなどによる中間所得層をターゲットにした製品の開発・育成

✓ 中長期的な成長基盤獲得へ向けての取り組み

⇒ 新たな国、OTC以外の領域への展開等、M&Aも含め検討

2016年度の取り組み



- 医薬事業

新薬の売上最大化および継続的な新薬上市に向けた 取組みの強化

- ✓ ルセフィおよびロコア等の新薬売上最大化を図る
- ✓ 現在開発段階にある化合物の早期承認取得を目指すとともに、積極的な導入活動によるパイプラインの強化を図る
- ✓ オリジナル新薬の創出を強化するために、外部研究機関との連携強化にも取り組む



株主還元について

●2015年度の株主還元

- ・自己株式の取得（取得株式数：1,152,200株）
- ・2015年度配当結果
1株当たり100円（中間50円、期末50円）
- ・総還元性向：80.8%

●今年度の株主還元方針

- ・2016年度配当予想：配当性向：36.6%*
1株当たり110円（中間50円、期末60円）
- ・株主還元の方針は変更なし

*配当性向は、特別損益を除いた当該期純利益により算出